

教育長	教育部長	課長	指導主事	課長補佐	主査	係	保存区分
							永・10 5・1

令和元年度第1回大口町総合教育会議

令和元年12月20日

午前10時20分開議

大口中学校1階 会議室

- 1 開 会
- 2 町長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 教室移動、授業の見学内容について意見交換
- 5 その他
- 6 閉 会

構成員

町 長	鈴木 雅 博	教 育 長	長 屋 孝 成
教育長職務代理者	藤 田 金 生	教 育 委 員	丹 羽 茂 文
教 育 委 員	鈴 村 由 布 子	教 育 委 員	水 谷 惠 子

町長部局

総 務 部 長	社 本 寛	政 策 推 進 課 長	吉 田 幸 弘
政 策 推 進 課 主 査	村 田 直 樹		

教育委員会

生 涯 教 育 部 長	渡 邊 俊 次	学 校 教 育 課 長	倉 知 千 鶴
-------------	---------	-------------	---------

学校教育課主幹兼
指導主事

江口孝一郎

学校教育課長補佐 兼 松昌史

(午前10時20分)

○吉田政策推進課長 では、皆様、おはようございます。

本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

御案内させていただきましたとおり、令和元年度第1回大口町総合教育会議の前に、まず生徒たちの教室の移動と授業を見学していただきたいと思います。

見学の前に、お手元の資料の確認と本日の流れについて御説明させていただきます。

資料につきましては、次第と大口町総合教育会議構成員等名簿、それから本日のスケジュール、最後に校舎平面図となっておりますが、資料は皆さんおありでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○吉田政策推進課長 続いて、本日の流れについて御説明させていただきますので、スケジュールをごらんくださいませ。

午前10時25分から35分まで、2時間目から3時間目の教室移動を御見学いただきたいと思います。その後、35分から午前11時5分まで3時間目の授業を見学していただきまして、午前11時10分までにこの会議室へお戻りいただきたいと存じます。その後、午前11時10分から会議を開催させていただきます。なお、会議終了後、1年生の教室へ移動していただき、給食を食べながら生徒とお話をさせていただけたらと思います。

間もなく2時間目の授業が終わりますので、見学へお出かけいただきたいと思いますが、見学しているところを撮影いたしまして、中学校のホームページに掲載したいというお申し出がございましたので、御了承いただけたらと思います。

では、御移動のほうをよろしく願いいたします。

まずはこれから見学でございますので、11時10分になりましたら、こちらのほうにお戻りくださいませ。どうぞよろしく願いいたします。

(午前10時22分)

(学校見学)

○吉田政策推進課長 では、見学お疲れさまでした。

(午前11時08分)

1. 開会

○吉田政策推進課長 若干定刻より早いですが、ただいまから令和元年度第1回大口町総合教育会議を開催させていただきます。進行を務めさせていただきます政策推進課の吉田と申します。

どうぞよろしくお願ひいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定によりまして原則公開となっております。また、会議の内容について、後日、資料及び会議録とともに町ホームページにて公開いたしますので、よろしくお願ひいたします。

なお、本日は傍聴人はございません。よろしくお願ひいたします。

2. 町長挨拶

○吉田政策推進課長 では初めに、この会議の主催者であります鈴木町長より御挨拶を申し上げます。よろしくお願ひいたします。

○鈴木町長 改めまして、皆さん、こんにちは。

大変出にくい時間に教育委員の皆さん方にはお集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

今、見学をさせていただきましたけど、何となく自分の子供のころをふと思い出すというのを感じたのは俺だけなのかなあとちょっと思ったんですけど、ここでいろんな意味で学校のあり方や、そしてまた教育のあり方というのがどんどん変化をしていっているんだなあというのを感じる昨今であります。

大口町は大口町の人たちで子供たちを育てるとというのが、いつも教育長が話をする中でよく出ている言葉であります。ですが、やっぱりいろんな意味での周りの環境や、そして起こり得るであろういろんな出来事の中で、子供たちはどんどん成長をしていくという中での道しるべというのが学校であるべきでありますし、また小学校、中学校という一つのくくりではなく、6年、3年の9年という長い期間の中で、我々の大口の子は大口の精神、そしてまた大口の環境やいろんなものを育てていくというのが一番大きなポイントではないのかなあと、逆に言うなら一貫した教育を続けることによって、子供たちの成長というのが物すごく変わってくるのではないのかなあというのをきょう見学させていただいて感じたわけであります。

昔から大口町というのは北と南という地域に分かれていたものが、ここに来て北の文化、南の文化、いろんなものが交わる中で、自分たちの大口という一つの人間性、もしくは感受性、その他いろんなものを総合的に自分で行っていく、本当に大事なポイントではないのかなあということを感じた次第であります。ぜひ、今後、我々としては、一人でもすばらしい子供たちがこの大口から育ってくれて、また大口を担ってくれる子供たちに成長してくれることを心から願うものでもありますし、そのための支援というのはやはりやっていかなければならないというのを感じる昨今であります。

そして、教育委員の皆さん方におかれましては、いろんな意味で変わり行くいろんな方向性

をこれからもいろんな形で考えを出していただいで、大口の子は大口で育てるという一つの理念の中で、その子供たちのための教育ということを考えていただければありがたいのかなあと
いうふうに思っております。

もちろん、いろんな意味で変化やいろんなことが起きてくる中で、やはりそれぞれの対処を
していくことが我々に与えられた義務ではないのかなあとということを感じておる中でありま
す。ぜひ、今後ともいろんな意味で子供たちのために御尽力願いますことを心からお願いを申
上げて御挨拶にかえさせていただきます。きょうはお時間とっていただきまして、皆さんあ
りがとうございました。

3. 教育長挨拶

○吉田政策推進課長 ありがとうございます。

続きまして、教育委員会を代表いたしまして、長屋教育長より御挨拶をいただきたいと思
います。どうぞよろしく願いいたします。

○長屋教育長 改めまして、こんにちは。

まずは、鈴木町長におかれましては大変お忙しい中、このような総合教育会議を開催してい
ただきましてまことにありがとうございます。また、教育委員の皆様におかれましては大変御
多用のところ、この会に参加をいただきましてまことにありがとうございます。

この総合教育会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正をされ
まして、開催されるようになってきて、今回が通算6回目ということになります。現在、学校
教育におきましては、本当に教職員の在校時間を減らしていく取り組みを初め、幾つかの児
童・生徒にかかわる問題につきましても、本当に多くの今日的課題を抱えているわけでありま
すが、きょうは実際の子供たちの学校生活の一部を参観し、そしてそれをもとにして今後の本
町の教育につきまして、町長、教育委員が協議を重ねることで、教育の今日的な課題解決の糸
口が見つかればということをご期待しているところであります。短い時間ではありますが、ど
うぞよろしく願いいたします。

4. 教室移動、授業の見学内容について意見交換

○吉田政策推進課長 ありがとうございます。

それでは、教室移動、授業の見学内容について意見交換に入ります。

なお、大口町総合教育会議運営規程第3条に会議の議事進行は町長が行うとなっております
ので、議長を町長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○鈴木町長 議長というのか、進行役というふうに御理解をいただければありがたいのかなあと

思っております。ざっくばらんに今の学校教育というか、今の中学校を見ていただいて、それぞれの思ってみえる意見をお聞かせ願いたいというのが私のほうからのお願いでもありますし、今後どうしたらいいのか、今までどうだったのかという検証を含め、それぞれの教育委員の皆さん、教育長を含め、いろんな皆さん方の御意見を頂戴できるかなあというふうに思っております。

感想と意見ということでいきますと、それぞれ答えられるところは、きょう学校教育のほうに来ておりますので、お答えをさせていただきながら、また答えられない部分に関しましては、後日、皆さん方のほうにお話をさせていただくというような形をとってまいりたいと思っておりますので、ぜひ御協力のほどをお願い申し上げたいと思っておる次第であります。

まず最初に、長屋教育長、昔、校長をやられた実績の中で、今の教育と昔の教育とどう違ったかということからちょっとお聞かせ願えるとありがたいのかなあと。

○長屋教育長 昔の教育といいまして、10年を一昔ということならば、明らかに10年前でありますので昔になるかと思えます。それと今の状況でありますけれども、まず学校が落ちついているのかどうかということ判断するのに、昔も今も変わらないところだと思うんですけれども、げた箱を見てきました。げた箱で、一つは空欄があるところが欠席でありますし、それから靴のそろえ方の中で、かかとを踏んづけているのがふえればふえるほど、その学校は荒れているなあということがわかるわけですけれども、今見てきた限り、げた箱のところで靴を踏んづけておったのが1名、1つありましたので、ほぼ落ちついた状況で子供たちは日々生活をしているのではないかなあということを使った次第です。

それから、放課時間に出会う生徒の表情、それから外来者に対する対応を見ておりますと、かなり表情が明るい感じを持ちまして、そういう点では、生徒指導上の問題についてはいいふうにいっているんじゃないかなあということをおもいました。もちろん個々に掘り下げてみたときにさまざまな問題があるということは考えられるわけですけれども、全体として見たときに、落ちついて明るい雰囲気は醸し出されているなあということをおもいました。

それから、授業については、深くきょうそこに視点を当てなかったんですけれども、我々の10年以上前のことから見ますと、授業改善というのは力を入れてきているわけですけれども、今までの学校訪問等で小学校と中学校との授業のあり方を見たときに、小学校のほうはかなり新学習指導要領に向けての授業改善がされているというふうに思ったわけですけれども、それに反して中学校のほうはやや遅いなあという感じをおもっているところです。以上です。

○鈴木町長 ありがとうございます。

皆さん、どうですか。御意見を。

○藤田教育長職務代理者 変わってきたとかそういう、そこら辺ですか。

○鈴木町長 いや、何でもいいですけど。

○藤田教育長職務代理者 教科センター方式でコンパクトに設計されておるんですね、この学校。教室によっては狭いかなあというところもあるんですけど、それは子供の動線を考えて、こういうふうにされておるんだらうということは理解できます。これがもっと広い、校舎いっぱい、敷地いっぱい使って、教科センターでなくても、学校設計というのは、校舎があって自然科学棟が遠いところにあったり、技術棟がかなり遠いところにあったり、そういうことは一切ないです。子供の移動とかそういうことはかなりスムーズにいつておるんじゃないかなあというふうに見受けております。

昔ですと、まず中学校1年生の教室移動をするときに、担任の先生は室長を捕まえて、室長が廊下にクラスの生徒を並ばせて音楽室なり理科室へ移動すると、そういうことを教えてだんだん積み上げてきたんですけど、今、子供たちは小学校の段階もずうっと過ぎていて、一人で動いていけるような雰囲気は僕は持ちましたが、この状態なら子供も動いていけるんじゃないかなあと思うんですが、一つだけ、たくさんの荷物を持って移動するのがかわいそうかなあという気がしている。そこらに改善点があればなあとも思うんですが、今の移動についてはそんなに心配していませんが、荷物が多いなあということがちょっと心配かなあ。そんなことをきょうふらっと見ておってそう思ったんですが、本来、放課の時間に子供は何をやるかといったら、中学生の放課というのはトイレへ行って教室移動だけ、ほとんどじゃないかと思いますが、もうちょっと上のほうへ上がっていくと、放課が長くて、放課の間に課題をやる子も出てきますから、そういう面で余り移動をたくさんにしてあげるとかわいそうかなあ。そのかわり、短大までぐらい行けば、時間90分の1単位、1つの升が90分ですから、その間の間でかなり子供たちは時間を上手に使うから。中学校の段階のこの短い時間帯でよく動いておるなあと思って、移動だけだったらこれでいいんじゃないかなあと思って見せてもらいました。

あと、もし放課の時間に課題をやるというような子が出てくると、その場所とかそういうことも考えてあげないかんけど、設備上はコンパクトでいいんじゃないかなあ。移動についてはそんなふうに思っておりますが。

○鈴木町長 ありがとうございます。

丹羽さん、いかがですか。

○丹羽教育委員 前々から私も教育委員会等で言わせてもらっているんですけど、ここはまだ10年ぐらいですか、できて。それにかまけているかどうか知らないですけど、掃除が全然行き届いていないですね、それは先生たちの。職員室は汚いし、町長、あとでコピーをとってもらっているいろいろ見てきてください。ああいうほこりがかかってはいけない電子機器がほこりまわりますね。もう、それこそ金鳥、クイックルワイパーか何かでさっささとやれるような、そう

いうほこり。それから前も江口先生にちょっとお願いをしたんですけど、各数学、英語、社会、国語の各教室がよく見えるような状態になっていないし、中へ入られるとわかりますけど、もう整理整頓のセの字も。

だから、さっき教育長が言われた在校時間の、先生たちが長いとかどうのこうので、部活をやらない日だとか定時で帰る日なんて、そんなとろくさいものをつくる前に、先生が生徒の前できちっと掃除をする日、掃除をする時間、そしてもうちょっと整理整頓とか、いろんなどころが剥がれて、きれいにしないと。そりゃあ、あんな中で活動していれば、ものづくりの青山製作所の五条川工場のほうがきれいだと思いますよ、大中の職員室よりも。そのくらい、そういう中で仕事をしていけば、そりゃあ在校時間長くなるんですわ。動線も悪いし、書類はいっぱいぐちゃぐちゃに積んで見える化になっていないし、整理整頓のファイリングの状態も悪いし、それで教師がすごいブラックな企業だとか業務のどうのこうの、その前に整理整頓で掃除をきちっとして、自分たちの業務の効率化を考えて、自分たちの背中を生徒に見せろと言いたいですね、私は。

○鈴木町長 ありがとうございます。

後から学校教育課で、その答えをちゃんと考えておけよ。

鈴木さん、どうですか。

○鈴木教育委員 同じようなことになってしまいますけど、ちょっと教育長先生が言われたように、げた箱はすごくきれいに整頓されてありました。それに比べて、丹羽さんが言われたように教科教員室が汚い。ラウンジも、せっかくあんな広いラウンジがあるのに隅っこに、一応ラウンジ、この教科だよというような本とかいろんなものは並んでいるんですけども、何十年前の本だみたいなのがあったり、ほこりをすごくかぶっていたりというところで、せっかくいいもの、いい建物があるのに使い切れていないのがすごく残念に思っています。

毎週、私も支援ボランティアのほうに、学校に通っているので、ちょうど移動時間なんかに登校するんですけど、そうするとやっぱり挨拶はすごく、どの子たちも、中途半端な時間でおはようございますだったり、こんにちはだったりいろいろですけど、すごく挨拶はみんなしてくださるので、生徒さんはいい感じに育っていると思います。もう少し先生方、頑張っていたらなあと思っております。

○鈴木町長 確かに、廊下の隅というか、廊下のところって結構ほこりがいっぱいたまっていたなあというのは、さっき俺見ていて思ったことなんです。同じように、割と掃除というものに対する認識度が教員の中に少ないのかなあというのはあるような気がせんでもないんですね。だから、やっぱり子供たちももちろんなんだろうけど、さっき丹羽さんが言われたみたいに整理整頓という言葉って一つも張っていないんですね。そう思って、昔、学校へ行くと整理整頓

なんて当たり前のようにぺたぺたあちこち張られてという、あったじゃないですか。今、どこにも張っていないので、どうなのかねえというのをふと思った。

○藤田教育長職務代理者 勝手な主観でいいですか、整理整頓ということについて。

○鈴木町長 どうぞ。

○藤田教育長職務代理者 整理整頓なんていうことは、家庭のしつけの中で、おじいちゃん、おばあちゃんから親、そして子供へ、結構家庭の中でつながっておる部分もあったんですが、今のお子さん……。

○鈴木町長 ないですよ。

○藤田教育長職務代理者 外で育てられる子供が多いですね。

ゼロ歳児からというのがありますね。確かに児童館育ちの子は、整理整頓は下手ですよ。

○鈴木町長 そうなんですか。

○藤田教育長職務代理者 僕がやってきた過去の話ですけど、児童館でずうっと預けられたりなんかした子は、社会性、言葉でばあつと言ったりなんかは、非常に発達しています。人間のテリトリーが1人2メートルか何か知りませんが、初めてほかの子と接触するとき、2メートルの範囲を越境するためにこれが発達するのかもしれませんが、靴が散らかったり何か、そういうことが下手です、訓練されていません。これから、もっともっとちっちゃいときからなってくると、整理整頓なんていうものは気をつけておかんとなくなっていくやないかと心配していますが、これは自分の感覚です。

○鈴木町長 そうですね。

いわゆる、さっきちょっとお話ししましたように、小学校の教育のあり方や、保育園の教育のあり方や、中学校だけ見てしまえば、しつけの部分だ何だという話もちろん出てくるんですけど、もう変声期があって、いよいよ本当に大人と子供の境をさまよう中で、その前にどうしてもしつけという部分はきっちりしなきゃいかん部分だと思うんで、きょう確かに整理整頓、小学校に張ってあるのか、整理整頓という言葉って。見たことある、見ないよなあ。ということは、保育園は。字が読めねえか、保育園だと。

ということは、今、藤田さんが言われるみたいに、子供たちに保育士たちが整理整頓だよという言葉をおかなくいかんということになるんで、やっぱりそういう意味ではいろんな意味で一貫性という問題、未満児からいかれるとどうなるかわからんけれども、何年になるかわからんけれども、12年なのか13年なのか、その辺は別として、1こま1こま、大口中学校、大口小学校、大口保育園という垣根をどこかで取っ払って、ある程度一貫したものを教えていかなければならないということになってくるんじゃないかなあと、今のお話を聞いていると思ったというのが実情なんで、それに対する意見は、生涯学習部長さん、ございますか。どうで

しょうか。何か意見を言ってくれよ。

○渡邊生涯教育部長 今考え中です。

○丹羽教育委員 ちょっといいですか。

○鈴木町長 どうぞ。

○丹羽教育委員 ちょっと誤解があるようですが、今、保育園とか小学校とか、整理整頓と言われましたけど、私が言っているのは教師の教育をしてくださいと言っているだけです。子供の教育や生徒や児童の教育を整理整頓しているのではなくて、先生が整理整頓がわかっていないからお願いしますと言っているだけで、その前に教える先生が整理整頓ができないなんて、幾ら平仮名で整理整頓と書いても子供はついてきませんと思います。僕は、先生の整理整頓。

だから、もっとあってもいいのかな。町長のお好きな教科センター方式でも、整理整頓がきちっとやれなくて合理的な教育ができない先生は、教科センター方式のもとでも、教科センター方式でない学校へ行っても、それは学力テストは悪くなりますよ。私はそう思っています。

○鈴木町長 いかがですか、教育長。

○長屋教育長 いろいろな整理整頓の仕方があるんですけども、私の例からいきますと、私も、もういないんですけども母親からげたをそろえよということをお酸っぱく言われました。これは、自分が教員になってからも言われ続けたことであります。

今、孫たちがうちへ来るときにはばば一と上がってきて、靴をばばとやっておるやつを見て、入ってくる時は次の行動のことを考えて、げたというか靴をそろえてこいと言って注意をしています。この注意がずうっと続いてきているんです、実は。やっぱり一つの一番単純な簡単なことでも、徹底するのはなかなか難しいことだけれども、私自身はげたをそろえるということは、靴をそろえる、玄関をそろえるということは、世の中、それができたら生きていけるんじゃないかなあと思うぐらい重みを置いていることですが、なかなか徹底できないというのも一つ事実であります。

私はそのかわり、必ずそろえて入っている。うちの家内は、急いでおるとか何か理由をつけるんですけども、そろえてこないことがあるわけです。家内には注意していないんですけども、孫には注意をして、そういう状況がありまして、丹羽委員のおっしゃった先生の姿勢ということですね。これは整理整頓の中でいろんな先生がおって、徹底したいことではあるけれども、なかなか難しい面もあるということも事実です。回答になっていませんか。

○渡邊生涯教育部長 丹羽委員さんから再三言われておったのが、要は教科教員室とか教科ラウンジが非常に整理ができておらんと機能していないと、それはやっぱり教員の資質によるのではないかなという、そういった厳しい御意見をいただいておりますが、私もぐるっと周囲を見てきたんですけども、やはり教科によって、ある程度整理されておる教科教員室もありま

すし、積みっ放しの教員室もありますので、縁のほうに教材を並べたりとかそういった使用のされ方をしておるので、せつかく広いラウンジをもうちょっと機能的に使えるような形になると本当にいいのかなあというふうに思っております。

それと、最初にありましたげた箱の話ですけれども、私は見てきたんですけれども、もうちょっと傷んでおるのかなあと思いました。そうしましたら意外ときれいに使ってみえるのと、あとロッカーが多分メンテナンスをしてみえると思うんですけれども、ヒンジが欠けたりとかそういった支障があるような部分が本当に少ないなあ。そういうところはやっぱり先生の指導等で大事に物を使うようにというようなことがあるかもしれませんけれども、思ったより、中学校としてはきれいに生徒たちがそういったものを使っておるのかなあと感じたところでございます。

○鈴木町長 ある意味、学校の先生たち、教員の皆さん方の教育という意味での話、丹羽さんから出た話の中で、ただそれが本当に現実にできるのかねというのがすごく不安な部分だとは思いますが、それをやってのけられるのも、こういう幾つかある中学校の中でというわけじゃなくて、大口の場合はここ一つしかないんで、先生たちの考え方によって大分変わってくるのではないのかなあということを思う。

ただ、その組織の中で、誰がそれを校長初め教員の皆さん方に周知できるかということというのが難しい部分じゃないのかなあ。いわゆる教員の場合は県の管轄になる。ただ、あるのはこっちの大口にある。そういう意味での行政というか、区分の違いというものがあると思うんだけど、江口君、どうなんだい、そういうのは。

○江口学校教育課主幹兼指導主事 区分ですか。

○鈴木町長 区分というか、いわゆる今、丹羽さんや藤田さんから出ている話の中で、子供たちの教育ももちろん、これは当たり前話なんだけど、先生たちの認識を変えないといかんという一つの題材の中で、これを誰が教員に伝えたらいいのかという。教員というのか、学校の教員の皆さん方に、例えば町長として俺が校長に言うことなのか、もっと言うなら、教育長が校長を呼んで言うことなのか、教育委員の皆さん方との会合の中でそれを言うべきなのか、それを直接校長に言うべきなのか、県に言うべきなのか、丹葉地区のそういうところで言うべきなのかという中で、何か一つそれぞれどこかでちゅうちょしている部分、何か言っているのかな、言っちゃいかんのかなという部分がどこかにあるような気がするんだけど、今、いわゆる組織の中でいう命令系統と言ったら言い方が悪いんだけど、そういうものをやっぱりどこかできちっと割り出さないと、今後いろんな問題が出たら、今はたまたま掃除の話だけれども、いろんな問題が出てきたときにみんなが一步後ろにちょっと下がってしまう、これは言わんほうがいいよなあというようにところが今後いろんな意味で出てくるんじゃないのかなあ。

だから、先ほど言われたみたいに、ゼロ歳児から預けてりゃあ、そんなもの保育士が教えな
いかんだろうというようなことを親は言う人も中にはいるらしいんで、そういういろんな観点
というのがちょっとずつ昔と、昔はじいさん、ばあさん、もっと言うなら家長としたその人が
言ったら、もうそれで終わりという家庭の中にあったものが、もうどうなっておるかわからん
というような家庭もあるんで、そういう意味では今後、教職員が手本となるべきものって物す
ごくたくさん出てくると思うんだけど、その命令系統というのか、その指示系統というものが
どうも俺もいまちはっきりしない、どこまで突っ込んでいいのかというのがわからないとい
うのがあるような気がしてならない。

水谷さん、先生をやってみえたでしょう。

○水谷教育委員 私はやってない……。

○鈴木町長 お父ちゃんはやってみえるでしょう。

○水谷教育委員 はい。

○鈴木町長 お父ちゃんたちはどういうふうに思ってみえるんだろうね。

○水谷教育委員 私は気になったことはすぐ相談するんですが、私も先ほどから話題に上がって
います先生の姿勢というか、そういうところに最近気になることがありまして、男性の先生で
三、四人もしくは四、五人、不精ひげを生やしてみえる方が見えるんですね。特にきれいに整
えてというわけではなく、見ても清潔感がないというように思われる容姿なんですね。企業で
働いているちゃんとした大人がそのような容姿で営業に行けますか、行きますかということ
をぜひ考えてほしい。

町長がさっき江口先生に言われたみたいに、ちゅうちょするのかなのか、遠慮するのか
ということなんです、私は先ほど廊下を歩いていますときに、教頭先生に最近、不精ひげを
生やしてみえる先生が何人か見えるようなんですが、その辺の御指導はどのようになってい
ますかというふうにちょっとお尋ねしたんです。最初のころはというか、年度初めのころは教頭
先生、かわってみえて1年目ですので注意をしてみえたというふうなんですね。それが、最初
のころは注意をしていたんだがなあ……という感じで終わってしまったんですが、その会話は、
いつからそんなふうなルーズになったかなあ、先生方、というふう思うんです。

それは、やっぱり先ほどから話題になっている掃除ができていないとか、資料の整理ができ
ていないということに結びついていく、イコールではないかなあというふうに思います。ちょ
っと先生の方にきょうの話題が向いていってしまって申しわけないんですが、やっぱり先生
が変われば生徒が変わる、生徒が変われば学校が変わるというふうなベクトルが向いてい
るので、ぜひ、丹羽さんが言われたみたいに立派な大人の背中を先生方に見せてほしいと思
います。

前の教育委員の定例会でも丹羽さんが言われたアクティブ教育委員という言葉がちょっと私、気に入ってしまっていて、どんどん言っていくべきだというふうに思います。以上です。

○鈴木町長 ありがとうございます。

何か誰か、社本君、話するかい。

○社本総務部長 人事担当しまして10年なんですけれど、最初のころに、やっぱり新規採用の方にいろいろと3カ月ぐらい研修をとという話をしたら、当時の町長は、おまえ、そんなことは今までの家庭や大学、高校までに学んでくることだろうというふうに言われて、そうなんだけれど、できていないことがわかっていれば、やはりそれは責任を負うわけではないけれど、補完すべきじゃないのという話を実はしたんです。

先ほどから片づけの話でいくと、教員だけではないですよ、今、偉そうに言っていますが、役場だってくしゃくしゃなんですよ、実は。今、五条川工場の話があったんですけど、ぴかぴかですよ、本当に。例えば、マザックさんの大口工場へ行くところ、これはボールペンですが、工具に全部型番が書いてあって、型番のケースがあって、みんなそこにこうやって入れるんです。同じものがないんですね。片づけていないからいっぱい物があふれて、だから効率が落ちる。

それからあと、ここ数年やっとな安全衛生という、かなり課長が一生懸命やってくれていますけど、指摘されるのは片づけなんですね、やっぱり安全衛生とか。だから、教員さんだけじゃなくて、やっぱり私たちの本人のほうも、安全だとか、それからコストだとかいうところに結局意識がないものだから、片づけもできていないし、それから物もあふれているし、うちの子供の例でいけばちょっとお恥ずかしいんですけど、やっぱり物が多いんじゃないのと。多いから片づけられないし、大事に使わないという。職員のほうも書類をたくさん自分で持ちたがるんで、その整理ができない、差しかえがいます。だから、できるだけ共有していくようなことをやっぱり進めるべきということで、うちのほうは今、行政課のほうに話をしているのは、文書管理のシステムのまた更新があるんですけど、システムの更新もいいけれど、やっぱり文書管理の仕方を一回統一しようよと。

さっきのひげの話があったんですけど、ひょっとすると個人の自由じゃないのと、例えばそれを指導するとパワハラを訴えるぞみたいな話になる時代なのかなあという気もするんです。だから、そのところが自由なのか勝手なのかとかいうあたり、町長は、誰が言うんだという、言う人間が多分悪者になるんですね、これ、恐らく。誰かが悪者になっても言うのか、それとも仕事として請け負ったところが言うのかにはなると思うんですけど、そういったことはやっぱり恐れずに、こういうことが要るんじゃないのみたいなところで、最初はマイノリティー、少数派であってもやっていかないといけない時代で、子供に言っているのは、自分のことも身

を正さなきゃいけないんだけど、自分たちが子供さんに教えて、家庭を補完して、その子たちが親になって、おじいちゃん、おばあちゃんになる時代を目指していかないといかんというふうに思うんで、そういう思いを持って仕事をしてくれるといいけどなあという話は子供にはしているんで、やっぱり世の中全体のことと捉えて30年、50年。20年ぐらい前に、実は大中の校長が自分の恩師でして、なかなか今の世の中なあと言われて、戦後50年の教育の一つの結果が今じゃないですかと言ったら、おまえ、めっちゃ言うなと叱られたんですけど、やっぱりイギリスの立て直しも教育から始めたとかということですし、教育が全部、責任にされるとまたいけないんだけど、家庭と教育と分担は要るのかなあというふうに思っています。

○鈴木町長 暫時休憩にします。

(午前11時47分)

○鈴木町長 暫時休憩を閉じます。

(午前11時54分)

○鈴木町長 御意見をいろいろいただきました。それぞれ家庭が抱えること、教職員が抱えること、生徒が抱えていること、また教育委員会が抱えている問題、そして町として抱えなきゃいけない問題、また私、町長としてももう少し考えなきゃならないということを踏まえる中で、先ほど雑談の中で出ていました御意見等々をまとめさせていただいて、またどこかで皆さん方とこういうチャンスを持ってやっていかなければならないのではないのかなあということをおっしゃる次第ではありますが、その他、誰か御意見がございましたら。

○藤田教育長職務代理者 一言だけいいですか。

○鈴木町長 どうぞ。

○藤田教育長職務代理者 今、いろんな話が出ておってあれですけど、弱体教育委員会で、教育委員会がいろいろ集まって丹葉地方事務協議会をつくっておりますね。あちこち、市になっておりますね、犬山、江南、岩倉市ですから。市だと当然、指導主事さんとかそういう配置も全然変わってきます。残っておるのは、郡民の大口町と扶桑だけなんですけど、その協議会の中で本当に弱体なのは、弱体と言っちゃあ何ですけど、そういう感じです。

学校訪問なんかをするについても、市によっては単独で自分の市で賄えるんですね、学校訪問。ところが、うちらはそういうわけにいきませんから、事務協にお願いして学校訪問。主事さんに来ていただいて、授業についてとか設備、いろんなことに関して御意見をいただくわけなんです。事務協も弱体化していつてしまっていて、市の力が強くなっておるような気がするんですよ、市町の教育委員会が。

○鈴木町長 ちょっと江口さん、今の藤田さんが言われたことって、俺ちょっと理解がわからん
というか、その組織の内容でどうなのかというのがちょっと申しわけないけどわからないんで、
どういう、今の郡だ、市だといういろんなもののあり方というか、教育委員会がどうなってい
るのかという、それと今の学校に見に行かれるということでしょう。

○藤田教育長職務代理者 学校訪問というのをやってもらっています、どこの学校も。

○鈴木町長 いや、学校訪問というのは、教育委員会の皆さん方が、こんなことを僕が言っちゃ
ったら怒られるかもしれませんが……。

○藤田教育長職務代理者 本当の昔々の基本は、教育委員会が指導とかそういうことに入る場だ
ったんじゃないかと思うんです。それが、教育委員会、それだけでできないから、事務協にお
願いして事務協主催で学校訪問する。尾張教育がやるわけじゃないでしょう。事務協議会で主
事さんをたくさん頼んで、学校訪問していただいて御指導いただく。

○鈴木町長 極端なことを言うと、例えばきょう、大口町教育委員会5人のメンバーの皆さん見
える。このメンバーの皆さん方が学校へ行って、例えば大口中学校に来て、ここに校長と教頭
初め職員を置いておいて、昔はこっちから指導したということなんですか。

○藤田教育長職務代理者 指導の場、それが教育委員だけではできないから、主事さんを中心に、
教育の専門家を中心にやっておったと思うんですね。それが足らんから事務協議会というのを
つくってやってきたんじゃないかという、僕はそんなふうに認識しておるんですが。

○鈴木町長 逆に言うと、丹羽さん、そういうのを別にやったっていいんじゃないの、こっちで、
だめなんですかね。大口町教育委員会という名の中に、要するにバトルじゃないけれども、意
見交換というのをきっちりやれるという場をつくることってできないんですかね。

○江口学校教育課主幹兼指導主事 学校訪問の場は、やはり学校の教育の実情を見ていただいて、
そこについて御指導いただくという場であると思いますので、実際に学校訪問をしていただい
たときには、そこで御意見というか御指導をいただくという形で今はされていると。その場
になるかと。

○鈴木町長 でもそれが、要するに今、慣例化しちゃって、余りそういうことがないというのを
藤田さんは言ってみえるんじゃないかなあと俺は思うんだけどね、逆に言うと。そりゃあ、よ
その市町に行って、そこの学校がどうなんてわからせんがね、はっきり言うなら、実際の話。
そういうことなんでしょう、言ってみえるのは。

○藤田教育長職務代理者 だから、指導要領に即した授業がされているかどうかしか知らんです
ね。

○鈴木町長 そうでしょう。だから、それはいわゆる慣例の中に出てくる1年の行事の中の一つ
としてやらなきゃいけない部分だろうけれども、それこそ、皆さんが、水谷さんや皆さんが言

われるようにそういうやっぱり、じゃあ、教育委員会なんているかという話になってしまうのか。ここの中だけでしゃべっておったって、はっきり言うなら、誰もおらへんのやで、江口さんが悪いけど、おまえ、一人で何とか的になっておるんだけどな。

でも、やっぱり皆さんね、俺、きょう聞いていて思うのは、ここに持ってみえるのよ、熱い気持ちを。何とかせなあかんという気持ちを皆さん持ってみえるんだけど、でも、それをさっきの話でいう、丹羽さんじゃないけど、どこに話をするんだと、俺に聞かれても俺もわからんわという世界になってしまっておるんだと俺は思うんだわ。

そういうのって、例えば町で独自ではできないの。もっと教育委員会というか、会社の社長さんよ、元校長先生ですよ、今、校長先生の奥さんでしょう、主婦でしょう、今、教育長か。ということなら、みんなもう、それぞれの見方ってみんなすごいそろっているような気がするんで、そういうものを教育委員会の委員の皆さん方ともっと相談していただいて、はっきり言うならそういうものを、学校指導じゃないけど、学校訪問というものをもうちょっと確立させて、教育委員会が持っている力というのをもう少しレベルアップというか、もうちょっと何かみんなに言えるということが必要なんじゃないのかなあ。だって、そういうことを言うちょっと語弊があるかもしれませんが、皆さん不満を持ってみえるもん。

○藤田教育長職務代理者 それで、委員さんは委員さんですよ、教育長先生。実際、教育委員会でやっていくんだったら、江口さんみたいな立場の人がもっとふえないかん。1人ではやっていけません。

○鈴木町長 社本さん、そういう話らしいで。

そういうこともやっぱり皆さん方で、今、藤田さん言われるように、じゃあ指導主事をもうちょっとふやすとか、そういう話も別として、いろんなものをもうちょっとこう、せっかくいいチャンスをもたらったんで、もう一度皆さんで見直していただいて、こうしたほうがいいという教育委員会のあり方というのを御検討いただくというわけにいきませんか。皆さん、どうですか。

だって、俺も正直言って不平不満があるんで。正直に僕もありますよ。教育委員さんも多分あるし、水谷さんもあるし、そんなもん、藤田さんは絶対あるよね。だから、それをやっぱり具体的に何か形にするということをやらないと、最終的にどうなのかといたら、教育委員会は要らんだろうという話になっちゃう。おざなりで結局、教育委員会なんかは、はっきり言って要らんだろうと、委員の皆さん方がそう思われるようになるよ。そんなもの、何もならへんがや、ただおまえら、うまく言うなら役所と教育長の、要するに教育の部分とのおざなりのなそういう形だけの体裁を繕っているだけの会議をずうっとやっているのかという話になりかねない。

もうそろそろやっぱりここも、教育委員会もちょっと見直しをする必要があるんじゃないかなあ。事業形態と持ってみえる力というのは、それぞれの委員の皆さん方の持っている力、権限というのは相当強いものだとは俺は理解しているんだけど、その権限やいろんなものを表現する場がない。だから、教育委員の皆さん方も不平不満がたまってくるというのも事実だしね。違いますか、藤田さん。ですよ。藤田さんもそうでしょう。不平不満がたまっているでしょう。お二人ともそうですよね。

だから、そういうものを発揮できる教育委員会というものをやっぱり、江口さん、1人で悪いけど、ちょっと考えてくれよ。だって、言い方は悪いけど4人しかいないんだから。そのためにやっぱり、すばらしい方に教育委員になってもらっているんだから、この人たちがちゃんとと言える場をつくってあげないと。そういう場ってできないの。どう、江口さん。

○江口学校教育課主幹兼指導主事 私の一存ですか。

○鈴木町長 あなたの意見を聞いているだけ。

○江口学校教育課主幹兼指導主事 確かに、教育委員さん方の意見を直接届けるという場がない、そういう機会がないということは事実かなあと私自身も認識しています。誰かが仲介してその意見を伝えるというよりは、そういった声を直接届けるという形はあったほうがいいだろうなあと個人的には思いますけれども、ただ、難しいところは、学校運営がやはり校長先生を中心にして行われているということもありますし、あとは実際、何を校長先生が最も優先されるかというような、そういう運営に関する部分の考え方等もあると思いますので、御意見を伺いながら、どこに落としどころを持っていくかというようなところは、また学校長の判断等も出てくると思うんですけれども、それが教育委員会と学校とのかかわりがどのようにバランスをとってやっていくところなのかなあというところは感じているところです。

○鈴木町長 学校長の任命権というのは教育長やろ。任命権というか、権限としては。

○長屋教育長 まず、校長としての資質がどうかということになってきますので。

○鈴木町長 検討するというのは、教育長の仕事じゃないの。

○長屋教育長 この人は、校長に登用してもいいよという人物の中からの登用。選ぶまではできませんけど、物すごく強力で選ぶということではできない場合もありますけれども、ここの範囲のところ、私にとっては最も望ましいなと思う校長ということと言えるし。

○鈴木町長 ということなんで、逆に言うなら、たった4校しかないじゃん。小学校3つ……。

○長屋教育長 ですけども、人事関係は、愛知県の人事異動に関する決まりというか方針に基づいてなされておって、それで尾張教育事務所の丹葉地区の担当者のほうは、彼はあくまでも丹葉地区、犬山から岩倉までの50校近い学校がどの学校もうまくいくようにという、そういう立場で人事を動かそうとしている。私にとっては、私の管轄のところは大口ですので、大口に

一番よくなるようなことで人事を考えて、時としてギャップが出ることもあるということです。

○鈴木町長 わかりました。

○藤田教育長職務代理者 言いたいのはやまやまだろうけど、この会議ではそこまで、人事には立ち入りできません。

○鈴木町長 立ち入りできんわね。だから、いわゆる人事じゃなくて、校長先生たちにそういう話をしてもらえるとというのは、逆に言うとな僕にはちょっとわからない部分なんだけど、教育長がするものなのか、教育委員会がそういう話をするものなのかということになると、どっちになるんだよ。教育長か。

○水谷教育委員 町長、済みません、いいですか。

今年度で岩田校長が定年になられます。今度、新しい校長先生はどなたになるかわからないんですが、見えることになります。そのときに、校長先生がどの方か決まったときに、教育委員と面談をしたいですねという話にはちょっと固まりつつあるので、それがちょっといいきっかけかなあと私は期待しているのですが、それはもちろん倉知課長とかもわかってみえますし、話は届いていると思うので、そういう機会をつくっていただけると期待しております。

○鈴木町長 実際に僕もそう、最後に締めと言おうかなあと思ったんだけど、実際のことを言う。時間も正直言って来ておりますんで、新しく校長がかわっていくということの中で、そのタイミングを逃すわけにいかないという、いろんな分野があるんで、それにうち、指導主事と倉知君と、その辺で一回教育委員会の皆さん方ともいろんな話をしながら、できれば年に1遍や2遍はそういう会を最初から決めていけばいいんじゃないかなあというふうに思いますんで、ぜひ今後とも熱い御意見を頂戴できますことを心よりお願いをするものであります。

5. その他

○鈴木町長 続きますして……、これでいいの。

○吉田政策推進課長 はい。

○鈴木町長 ということで、これから子供たちとお昼御飯を、みそおでんをつくっていただいているらしいものですから、食べさせていただこうかなあと思います。その中で、今度、子供たちのいろんな感想もぜひ耳で聞いていただいて、今後の教育活動の中の一環として、教育委員会の皆さんには引き続き子供たちの御指導を心からお願いを申し上げて、きょうの教育会議を閉会とさせていただきたいと思います。

あとは、司会者のほうにバトンタッチしますんで、大変無理なことを言いまして、まずもって皆さん方に御迷惑、失礼なことを申し上げたかもしれませんが、ぜひお許しをいただきたいというふうに思っております。ありがとうございました。

6. 閉会

○吉田政策推進課長 町長、ありがとうございました。

その他までやっていただきましたので、これで令和元年度第1回総合教育会議を閉会させていただきます。委員の皆様におかれましては、御出席どうもありがとうございました。

なお、この後、ちょっとお時間がなくなりましたが休憩をおとりいただいて、給食となります。午後0時15分過ぎに給食を食べていただく各クラスの代表生徒さんがお迎えに来ていただけるそうですので、こちらの部屋でお待ちくださいませ。

また、給食が終わりましたら、再度、申しわけございませんが、こちらのお部屋にお集まりいただけたらと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(午後 0時11分)